江見水蔭（えみすいん）　小説家。明治二年八月十二日備前國生れ、昭和九年十一月三日歿（一八六九―一九三三）。本名忠功（ただかつ）、幼名量太郎。筆名えみすいん、すいいん、すいのいん、どだう庵、一徹怒之助、不知何人、五黄星、何某、作者不知、保田石蘭漢、俳加羅生、其笠、北町ノ水蔭、匿名、半翠隱士、吉備龍光、尾上江見藏、山水生、山陽ノ水蔭、巴波山彦、怒濤、怒濤庵、怒濤庵主人、怒濤庵水蔭、惠美愛子、惠美水蔭、戀山小雪、我俗坊、我俗坊其笠、東京巴泉、櫻哉舍よろづ、櫻哉舍主人、水、水の蔭、水生、水生、蔭子、水蔭亭主人、水蔭亭居士、水蔭亭雨外、水蔭居士、水蔭・山蔭、水蔭生、水蔭毛、江水、江・水、江水居、江水生、江見、江見山彦、江見生、江見骨法、海老子、淮亭雨外、濤庵、環翠子、白帆影人、白遠水長、短篇屋水蔭、破摩男、翠蔭、落水子、萬筆舍一得、蘇門芳龍、角燈子、遠山精史、都門俗塵子、丈高處居士、雨外、雨笠、雲亭龍光、骨法師、烏越山彦等。明治十四年上京、共立學校を卒へ、十八年杉浦重剛の稱好塾に入る。塾生嵯谷小波の紹介で、二十一年硯友社同人となる。二十五年江水社を興して雑誌『小櫻縅（こざくらおどし）』を創刊。のち『中央新聞』、『神戸新聞』記者を經て博文館に入り、『太平洋』、『少年世界』各主筆、更に成功雑誌社に轉じて『探險世界』主筆等を務めた。

著書『鹽試合』（明治二十四年八月）二十日春陽堂「文學世界」）、『十文字』（匿名、明治二十六年一月十九日春陽堂「探偵小説」）、「遠山殿・前編」（山内蘆蔭合作、明治二十六年二月二十六日山陽新聞社『山陽新聞』第四千五百十八號附録）、『小説百家選・第七卷（船頭銀杏（大將ぎんなへし）』（金子春浦合著、明治二十七年五月二十九日春陽堂）、『幼

年劍舞』（明治二十七年六月十五日博文館「幼年玉手箱」）、『紫一附錄琴』（尾崎紅葉合著、明治二十七年八月二十六日春陽堂）、『女の顏切』（關戸浩園合作、明治二十八年十月二十七日青木嵩山堂）、運事短篇小說『遠射砲』（合著、再版・明治二十八年十一月三十日博文館）、『白涙の種』（戀山小雪名、渡邊千治合著、再版・明治二十九年三月一十八日大阪・駸駸堂）、小鐵道小說『汽車の友』（編、明治三十一年七月二日博文館）、『創作苦心談』（合著・新聲社編、明治三十四年三月五日新聲社）、『江の島道』（內題「江島道」明治三十四年四月十九日春陽堂）、『汽車の大賊』（明治二十四年八月二十五日青木嵩山堂）、『大幻燈』（明治二十五年三月一日青木嵩山堂）、運事小說『武裝の卷』（明治二十七年五月十一日博文館）、『荒鷲の爪痕』（山影合作、明治三十八年一月一日青木嵩山堂）、『新空氣』（明治二十九年七月四日春陽堂）、『寶地探險補遺船』（明治四十年四月十八日博文館）、『寶地探檢奇怪怪獄』（明治四十年九月九日本郷書院）、『金剛杖』（合著、明治四十年九月十日春陽堂）、冒險小說『大鑾勇』（明治四十一年七月二十日博文館）、『むら雲』（合著・大町桂月・笹川臨風編、明治四十一年二月五日高育倫堂）、『野蠻人』（明治四十一年二月十日青木嵩山堂）、『美人船』（明治四十二年二月五日青木嵩山堂）、『空中の人』（明治四十三年五月十日高育倫堂）、『十文字一附女の死骸』（環翠子名、女黃生合著、明治四十三年五月十五日春陽堂「探偵文庫」）、『水陸叢書』（明治四十三年八月十八日博文館「名家小說文庫」）、『探檢女王』（明治四十三年十月二十六日博文館）、『地中の秘密』（大正七年四月十一日巖堂書店）、『親友社と紅葉』（明

和）二年四月）三日改造社）、『中心明治文壇史』（昭和）二年十月）二十八日博文館）、『怪奇趣味集』（昭和）二年十月）二十八日博文館）、『江見水蔭集―初鰹獻上記外卅九篇』（昭和）三年）一月）一日平凡社「現代大衆文學全集」）、『日本勇者物語』（昭和）三年八月五日クルス「日本兒童文庫」）、「水蔭行脚全集」（第）一巻『信濃と越後』昭和八年）三月）二十五日、第五巻『樂行脚苦行脚』九年一月）二十）二日、第七巻『瀬戸内と四國』九月五日、第八巻―江見直子編『追悼録』十年六月一日江水社）等。